

平成28年度特別選抜（推薦入試）

小論文問題

注意事項

- 1 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙を開けてはいけません。
- 2 問題用紙・解答用紙の定められた欄に必ず受験番号と氏名を記入しなさい。
- 3 問題用紙と解答用紙が別々になっています。表紙は切り離さずに解答しなさい。
- 4 問題用紙は表紙を入れて2枚、解答用紙が1枚、下書き用紙が1枚あります。
- 5 解答時間は60分です。
- 6 解答は解答用紙に横書きに記入しなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【問題】次の文章を読み、下線部について著者はどのようなことを伝えたいのか説明し、それに対してあなたが考えたことを800字以内で論じなさい。

科学を避けないようにする、というだけで一歩、科学に近づける。今よりも科学的になれる。わからないからといって聞かないという姿勢をやめるだけで良い。

自分にとって興味のないジャンルというのは、聞いてもなかなか頭に入らないものだ。試験のためにする勉強で、それをつくづく感じた人は多いのではないか。歴史のテストの前日に、どうしても覚えられなかったものが、ちょっと時代劇を見ただけで、自然に覚えてしまうし、またもっと自分で調べたくもなる。こんなに勉強が好きだったんだ、という思いを歳を取ってから経験する人は意外に多い。

つまり、人間というのは、「思い込んでしまう」生き物なのだ。自分は、それは嫌いだ。自分は、それに向かない。そういうものは、自分とは無関係だ。そんな数々の思い込みが、自分の可能性をいかに小さくしているか、ということに気づく必要があるだろう。

「思い込み」という言葉ではなく、「割り切り」というと良い印象に聞こえる。なんでも割り切って考えなくては、と多くの人が口にする。そうして沢山のものを諦め、大人になるようだ。ほとんどの人間が、「複雑」なものよりも、「単純」なものを望んでいる。自分の生き方をできるだけシンプルなものにしたい、と感じる。それは、複雑なものは頭を悩ませ、把握も処理も難しく面倒だからだ。難しいことは、すなわち苦しいこと。だから、できるだけ避けたい。これは生き物の本能かもしれない。

現実というものは、非常に複雑である。世の中も、社会も、人間関係も、すべて単純ではない。だからこそ、できるだけ「割り切って」単純に捉えよう、という方向性が自然に生まれる。これ自体は、とても素直なことで、けっして悪いことではない。

ただし、その単純化のプロセスで、「割り切る」という言葉に表れるように、ある程度「決めつける」ことが必要になる。もやもとした広がりや、ある一点で代表させ、そのシンボルによって認識する、という行為だ。「単純化」「デジタル化」などと表現しても良い。

自分に対して、「文系だ」と決めつけることで、目先の面倒を切り捨てることができた。たしかに単純になっている。そして、その単純化の過程で失われたものが、科学というわけである。

出典：森 博嗣、『科学的とはどういう意味か』
幻冬舎新書、2011年より一部抜粋